

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520799

研究課題名(和文)戦後の沖縄地域における「域内移民」とそのディアスポラに関する地理学的研究

研究課題名(英文)The Spatial Analysis of the Regional Settler in Okinawa since the World War II.

研究代表者

山口 守人(YAMAGUCHI, Morito)

熊本大学・文学部・名誉教授

研究者番号：30015581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：22の琉球政府計画移民集落の集落景観の造景は、八重山支庁の指導もあり、極めて酷似している。しかし、入植世帯の農業に対する専従意欲の差異が、平等性を重視したがあまり、専有する耕地の集落内分散を招いている現況に対する不満(耕起作業効率の悪さなど)となって現れている。現実には、一筆圃地の名義交換、離農・離村者からの買取などが生じている。注目すべきことは、これらの動きが、開墾入植当初の開拓団結成の仕方と深く絡み合っており、開拓団結成に「地縁・血縁による郷友的性格をもつ離散集団(ディアスポラ)」が存立していた場合には、新農村建設は展開をみていることである。換言すれば、開拓集落は存続しているのである。

研究成果の概要(英文)：It became clear that the maintain of the reclaimed settlement in Yaeyama Islands called for the existence of the territorial and the consanguineal unity in each applicable community.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：土地利用・景観 地域計画 地誌 移住・移民 生活空間 経済事情 農村地理学 歴史地理学

1. 研究開始当初の背景

(1) 「形成されたコミュニティ」がその後の国あるいは地域内外における政治・経済等の情勢変化、さらに大規模な災害の発生などによって相当な影響を蒙り、その性格を変えながら存続ないし消滅している。

(2) 計画移民集落は、「入植当初より、あるプランに従った共通の目標や関心をもって、合意・連帯、さらに共同性を育て上げる意思を持ち合わせている人々の集まり」であるから、「形成されたコミュニティ」を追求するにはより相応しい対象であり、研究素材とした『琉球政府計画移民村』は現行では希少な存在といえよう。

2. 研究の目的

(1) 本研究目的は既成のコミュニティならびにそれらによって維持されてきた集落が、国家並びに地域内外における政治・経済・社会等の情勢変化などによって、どのような影響を蒙り、その性格を変えながら存続あるいは消滅に至って行くのかのメカニズムを明らかにすることにある。

(2) 上記の目的達成には、まず、当該開拓団結成前後における団員(世帯主)個々の「共有された開拓プラン」の実態把握が不可欠である。具体的には、石垣島 17 集落(越来開拓団と美野開拓団は合併して栄開拓団となったので一つの集落として扱う)、西表島 5 集落、都合 22 集落個々の各家族入植に先行する先遣隊(各入植予定家族から派遣された成人 1 名から成り、家族受け入れのための住家・食糧としてのサツマイモ畑の造成が主な任務)によって主に作成された「居住班」構成、入植後に開墾する各家族の沃度に応じた土地分配などを詳らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 研究者が敢えて琉球政府計画移民集落(以下、計画移民とよぶ)に研究対象を絞ったのは、資料内容に厳密さと精緻さを求めたからである。計画移民は、公募を原則とし、市町村が窓口となって募集。応募者を琉球政府経済局に送達して入植者を決定した経緯のあることから、公文書類が残っている。

(2) 開墾した土地は入植後 10 か年間は無償貸与となり、入植者の自由意思で耕種が選ばれたが、鳥獣害が激しく、自家用食糧の確保も厳しかった。しかし、入植 11 年目に向けての土地台帳への登記、つまり開墾地ならびに宅地などの買受手続が開始されると、専業農家として開拓地に留まるもの、留まりながらも非農自営業、勤め人に転ずるもの、さらに集落を離れたものなど、現地での個別聴込調査で明らかになったことも多い。

4. 研究成果

(1) 対象集落 22 か村のすべてを踏査したが、石垣島の勝連・星野、西表島のヤッサ・古見の 4 集落については、消滅ないし隣接の既設集落に併合吸収され、いわゆるこの種の開拓集落としての体をなしていない。つまり、残りの 18 集落では集住形態をなす居住地区は 3~7 つの班に分かれ、各住宅の入植世帯は世帯主義の 2 反角の耕地を 8 筆前後、合わせて 1 町 5 反前後、土地沃度に応じて 3~5 か所に分散所有していることが明らかになった。

(2) 後掲の図と表は、上述の(1)の記載内容を、明石集落をモデルに示したものである。とくに図の下段< B >は、平等性を重視した開墾耕地の私有分配(10 年前後の買受を前提とした)が農作業効率の悪さを招き、その反省から、私有地の交換を重ねながら、分散していた耕地を数か所に集めつつある過程を示しているもので、開拓移民の専業農家への移行意欲を示すものである。

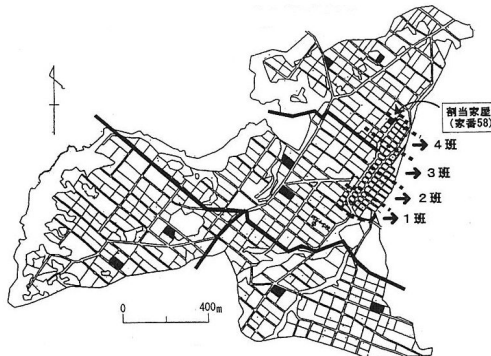
(3) 既述してきたように、研究者が、戦後の沖縄地域における「域内移民」として研究対象にしてきたのは、群島政府時代の 1946~1951 年に自由移民として入植し琉球政府成立後に計画移民に追認された移民と、琉球政府の八重山開拓移住者募集(1952~1957 年)に応募・選抜されて、同じく石垣・西表両島に入植した計画移民である。これらはいずれも入植先ごとに開拓団を組織し、未開の沃野を開墾、新農村建設を目標としていただけに、移民の資格は個人ではなく、満 20 歳以上 60 歳未満の農業を営んでいた戸主と、開拓業務に支障のない構成状況下の同家族であった。また、開拓世帯相互の紐帯・連帯は、20 戸前後の地縁ならびに血縁でまとめられた郷友的性格を帯びた離散集団(ディアスポラ)の結成に求められていた。

(4) しかし、先遣隊員世帯名簿(入植直後)、開拓集落世帯調査名簿(1964 年)、開墾地買受者世帯名簿(入植 10 年後)を開拓集落ごとに比較検討すると、上記の 2 つの要件ですらも、移住者募集の都度、逐一吟味されなかったことが明らかになってきた。つまり、1948~1953 年までの開拓団(開拓集落)結成では、居住地区を班分けし、共同作業は集落全体で、模範は隣接の班も含め、結は班内とする、琉球・沖縄の一般的な農業集落組織の創成の難易性が明確に意識されていた。具体的には、その核心は、同一市町村内の 2~3 の大字を出自地とする移住者の最少でも 10 世帯のまとまりの存在確認にあった(たとえば、1952 年 8 月、西表島に入植し、大富集落を創設した開拓団の中核は、沖縄本島北部、大宜味村の大字喜如嘉と大字謝名城との二大字の出身者でほとんど占められていた)。しかし、これ以降では、この先進に適う応募

は少なくなり、代わって1市町村当たり5世帯未満の、10か市町村以上も寄せ集まった開拓団が増え、各開拓団は退団世帯の多さと補充世帯の少なさに悩んでいた。

このことからしても、計画移民集落の存廃要因の一つが、既に開拓団結成時における地縁ならびに血縁でまとめられた郷友的性格も含めたディアスポラ精神の存否にあったことが実証された。

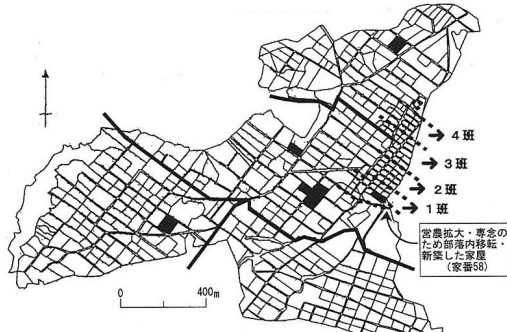
< A > 1955年4月入植時のサンプル「家番58」の割当家屋と抽籤結果で得た「計画地割」にもとづく自己の占有管理地の分布



注) 図中の太い点線は境界、太い実線はブロック界である。また、塗りつぶされた区画は、家屋指示の1か所を除き、8か所すべてが明石開拓団独自の「計画地割」にもとづく「占有管理地」(家族開墾による畑地)である。

出典: 班界・ブロック界はいずれも数人の元先遣隊員への聞き込み内容にもとづき復元。「自己の占有管理地」は、当該者から聞き取ったものを直接表記。いずれのものも2反角(600坪)前後である蓋であるが、面積表示に問題あり。

< B > 1968年9月土地登記業務進行途上時のサンプル「家番58」の移転・新築家屋と営業経営拡大の意図でもって得た「届出地割」にもとづく自己の私有地の分布



注) 図中の太い点線は境界、太い実線はブロック界である。また、塗りつぶされた区画は、家屋指示の1か所を除き、6か所すべてが「土地買受申込書」ほかの手続きを経て売渡された「届出地割」にもとづく「自己の私有地」(すべて畑地であるが、他家族開墾の畑地も含む)である。

出典: 石垣市立図書館所蔵『土地台帳・伊原間(三)』。

図 明石開拓団(明石部落)における入植・開墾から登記を終えるまでの『土地』の「占有管理・所有」の変動事例。

表 八重山郡大浜町(現、石垣市)大字伊原間小学赤石(のちに、明石と改称)に入植した琉球政府計画移民の概要(1955)と開墾地の取得状況(1968)

入植時(1955)の『明石開拓団』の 居住班・家族構成並びに出身市町村等 (計画地割・占有管理地)					土地買受申込書・土地売渡書(1966)にもとづき『台帳・籍図』に 登記(1968)を終えた『明石部落会』構成戸名義別取得土地の内容 (届出地割・私有地)									
家番	所属班	戸主 生年	家族 員数	出身地	取得土地の『台帳・籍図』上の地番									
1	4班	39	7	沖縄玉城村字百名	278	299	372	30	304	436	483	705	718	719
2	4班	38	6	沖縄玉城村字百名	499	534	628	634	654	701				
3	4班	43	8	沖縄玉城村字百名	284	306	407	433	595	613	715			
4	4班	22	3	沖縄読谷村字楚辺	255	261	262	307						
5	4班	31	5	沖縄玉城村字仲栄真	313	374	404	406	477	525				
6	4班	29	6	沖縄玉城村字百名	281	309	418	507	557	650	677			
7	4班	46	9	沖縄玉城村字百名	273	310	376	588	589					
8	4班	35	8	沖縄玉城村字百名	476	481	508	606	611	657	725			
9	4班	32	6	沖縄玉城村字仲栄真	312	384	416	566	673	692				
10	4班	50	2	沖縄玉城村字玉城	290	296	314	422	549	573	627	646		
11	4班	35	5	沖縄読谷村字楚辺	315	693	697							
12	4班	26	2	沖縄読谷村字楚辺	269	286	316	463	464					
13	4班	33	8	沖縄玉城村字百名	461	491	500	585	586	656	658	699	702	
14	4班	40	10	沖縄玉城村字百名	301	319	423	511	540	721				
15	4班	39	6	沖縄読谷村字楚辺	320	305	383	484	529	567	606			
16	4班	40	2	沖縄読谷村字楚辺	288	321	380	440	624	664				
17	3班	47	6	沖縄玉城村字百名	375	377	420	469	475	703				
18	3班	40	6	沖縄玉城村字百名	323	414	415	528	568	688				
19	3班	53	2	沖縄玉城村字百名	285	287	298	324	411	419	722			
20	3班	39	5	沖縄玉城村字百名	387	409	421	423	522	601				
21	3班	28	2	沖縄玉城村字百名	327	563	626	695	696					
22	3班	29	6	沖縄玉城村字百名	442	614	615							
23	3班	34	5	沖縄玉城村字百名	562	660	676	727						
24	3班	36	2	沖縄玉城村字百名	428	528	551	577	651	729				
25	3班	50	9	沖縄玉城村字産喜味	378	478	482	569	674					
26	3班	31	6	沖縄玉城村字百名	332	427	429	629	640	684				
27	3班	38	3	沖縄読谷村字楚辺	413	458	588	700	712	720				
28	3班	47	6	沖縄那覇市首里	412	492	496	518	808	812	704	716	717	
29	3班	40	9	沖縄玉城村字百名	451	516	526	527	541	630	648	689		
30	3班	64	4	沖縄玉城村字百名	514	542	699	724						
31	3班	24	4	八重山大浜町字桃里	337	439	445	504	552	583	643	709		
32	2班	56	7	沖縄大宜味村字謝名城	389	458	503	521	530	558	663	897		
33	2班	40	7	沖縄久志村字瀬原	410	485	497	515	604	679	690	726		
34	2班	57	9	沖縄大宜味村字謝名城	282	295	340	532	575	610	681			
35	2班	31	7	沖縄大宜味村字謝名城	341	426	669	678						
36	2班	36	8	沖縄大宜味村字謝名城	283	342	424	502	554	594				
37	2班	39	7	沖縄大宜味村字大兼久	291	343	392	417	471	607	609	662		
38	2班	47	4	沖縄大宜味村字大保	344	381	470	488	536	617	661			
39	2班	26	5	沖縄大宜味村字大保	345	379	408	446	487	489	560	644		
40	2班	19	2	沖縄読谷村字楚辺	382	550	561	507	622	659	683			
41	2班	41	6	沖縄コザ市安慶田区	437	547	597	600	602	609				
42	2班	29	5	沖縄大宜味村字謝名城	496	546	623	714						
43	2班	43	8	沖縄屋部村字謝山	466	509	538	598	666	680	723			
44	2班	43	5	沖縄大宜味村字大保	434	472	473	506	576	581				
45	2班	52	8	沖縄大宜味村字謝名城	443	524	555	595	592	593	638	641		
46	1班	42	2	沖縄美里村字高原	456	457	543	618						
47	1班	30	5	沖縄勝連村字内間	444	447	567	590	652					
48	1班	51	4	沖縄屋部村字謝山	556	591	683	678	710	728				
49	1班	30	8	沖縄石川市三区	571	600	649	662	707					
50	1班	46	5	沖縄コザ市上地	531	535	639	655	671					
51	1班	45	10	沖縄具志川村字字里	452	453	488	572	574	579	580	708	713	
52	1班	24	4	沖縄石川市字石川	438	474	495	625						
53	1班	32	4	八重山石垣市字大川	533	578	616	619						
54	1班	15	3	沖縄屋部村字謝山	435	490	502	548	633	672				
55	1班	38	6	沖縄北中城村字濱口	448	455	506	568	698	711				
56	1班	39	4	沖縄屋部村字謝山	501	537	545	564	565	584	621	645		
57	1班	31	8	沖縄屋部村字謝山	393	394	396	400	401	402	430	596	603	
58	1班	20	6	沖縄具志川村字字里	365	441	459	450	462	670				
59	1班	32	8	沖縄石川市字石川	479	482	512	513						
60	1班	35	4	沖縄具志川村字字里	457	510	544	599						
61	1班	42	6	沖縄美里村字桃原	449	454	562	631	632	665	685	706		
62	2班	50	4	沖縄石川市字石川	371	388	493	494	517	553	667			
63	4班	20	3	沖縄読谷村字楚辺	372	378	383	539	635	636	842			
集落共有地					285	270	289	300	317	352	366	368	388	390
計					519	637	647	691						

(注) 『取得土地の『台帳・籍図』上の番地』のうち、304-372は宅地を、251-303、373-414は4ブロックの1つである「北ブロック」の畑地ほかを、415-482、503-526は「中ブロック」のものを、493-502、546-634は「南ブロック」のものを、さらに527-545、635-729は「南西ブロック」のものを、それぞれ表している。

出典: 石垣市立図書館蔵、『土地台帳・伊原間(三)』ならびに、沖縄県公文書館所蔵『琉球政府農林局農政課行政文書』による。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

山口 守人, 「戦後八重山における琉球政府計画移民のコミュニティー形成とその維持機構について」, 歴史地理学, 査読: 無, 256 (53-4), 2011, 72~73

〔学会発表〕(計1件)

山口 守人, 「八重山契約開拓移民(琉球政府計画移民)と島ぐるみの土地闘争 - 1957 移住資金貸付通知綴の分析を介して - 」, 歴史地理学会, 2013年5月19日, 富山県砺波市花園 砺波市文化会館 [但し, 自宅階段からの転落事故の後遺症のため, 発表は大会直前に中止]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 守人 (YAMAGUCHI, Morito)
熊本大学・文学部・名誉教授
研究者番号: 30015581